

灯



「灯」を担当して先月で100回。新聞掲載の良さはいつ書いたかが明確なことだ。4年ほど前「首都消失」と題し「東京だけが日本ではない」と結ぶコラムを書いた。地方衰退を嘆いた内容だが、最近急に地方創生が叫ばれるようになり、担当大臣が置かれマスコミもかまびすしい。地方からみれば何を今更という印象もある。

地方創生の議論

一壊
生破
創市
方都
地大



草野 義輔

を見るとさまざまな意見があるが結局は、お金の配分に落ち着くようだ。しかし現実には、昔の流行語をもじれば、おせまり「同情するなら、人」をくれ」が本当のところかと思う。東京を頂点とする大都市への人口集中は、そこに仕事があり、医療な

どの公的な施設も多く住みやすいからだろう。裏返せばそれらは地方の弱点であり、特に仕事が少ないことが大きい。だとすれば大都市を住みにくくするしかないのではと、少々暴論的提言を書いてみた。

①首都機能移転と東京を500万人程度の国際都市に衣替え
②大都市税や水源税を創設し地方財源とする
③本社が大都市にある企業の法人税率を上げ、外形標準課税も上乘せする
④1学級定員を大都市50人、地方30人とし、大学を大都市から移

転させるーなどなど。

反論承知だが、地方からの人口流出を止めるには「大都市をぶっ壊す」くらいの逆転の発想が必要ではないか。現状では掛け声だけに終わると心配している。(昭和学園高校理事長・日田市)